

演会、「地域空間経営における地理学者の役割」をテーマとするシンポジウム、およびレンヌ大学のフリッポノー教授の特別講演など、多彩な催しがあった。教室の教官・学生、その他多くの関係者の努力によって大会は成功のうちに終了することができた。巡検は次の4班に分かれて行なわれた。A班：甲府盆地の自然・土地利用・伝統産業、B班：武蔵野台地北部の地形・地質、C班：利根大堰と見沼代用水、D班：東京湾コース。

日本地理学会の秋季大会は、10月2日から7日にかけて鹿児島市を中心にして開かれた。シンポジウムおよび一般発表は2日、3日の両日鹿児島大学で、巡検は4日～7日に行なわれた。シンポジウムは3つ行なわれ、テーマはそれぞれ、「台地」、「地域開発と環境保全」、「離島」であった。

巡検は次の4班に分かれて行なわれた。第1班：桜島・鹿児島市内コース、第2班：宮崎・大分方面、第3班：熊本・長崎方面、第4班：奄美大島・徳之島。

正井先生は、8月17日より8月29日まで第12回太平洋学術会議（キャンベラで開催）出席のためオーストラリアに出張された。同会議には本学元教官渡辺光先生も出席された。

（内藤記）

同 窓 会 関 係

地理学科第11回同窓会は、昭和46年11月14日（日）正午より桜蔭会館において開催された。前年度の会計報告、新入会員の名簿配布等にひきつづき、会員相互に近況を話し合い予定よりやや遅れ、13時30分から先生方を迎えての会食。14時30分より、上条淑子会員（第4回生）によるスライド「シルクロードの魅惑」が上映され、16時閉会となった。当日は丁度都内各所で不穏な動きがあり、国電をはじめとする交通が乱れたこともあり、出席予定者が欠席となる次第であったが、先生方7名、会員及び同行者25名の出席。飯本先生、赤木先生、渡辺先生方の御健康な御様子に会員も一安心。一方、会員の方は同行者の数が次第に増え、にぎやかな会であった。

スライドには上条会員の活発な御活躍が何われ、頼もしく感じた後輩の数も多かった。遅刻して入場せずに帰られた方、閉会後にかけてつけた方などもあった。

同窓会は毎年、11月の徽音祭第2日（日曜日）の正午より桜蔭会館において開催している。来年の担当者は、石川良美会員（第17回生）、森純子会員（第19回生）が予定されている。会員数が増え、200名余りとなった。

（岡崎記）